

2022年2月23日

李洪九・大韓民国元国務総理殿

崔相龍・元駐日本国大使殿

李三悦・対話文化アカデミー理事長殿

李富榮・自由言論實踐財團理事長殿

東アジア不戦推進機構

代表 西原春夫

謹啓 このたび、私共東アジア不戦推進機構では2月22日に東京にある日本外国特派員協会で記者会見を行いましたところ、ご懇篤なお祝辞をお寄せ下さり、関係者一同大変感謝し、喜び、感謝申し上げます。

2019年10月に岡本厚岩波書店社長（当時）とともにソウルで皆様に御目にかかり、2022年2月22日に少なくともまず私たちが属する「東アジアを戦争の無い地域にする」という宣言を、東アジアの国々の首脳が共同で、又は単独同時に発出する。②そのことを私たちが提案する、という企画につきご説明したところ、幸いにも基本のご賛同頂くという光栄を得ることができました。そして翌2020年8月12日に東京で記者会見を行い、これを公表した際にも、李洪九元国務総理の名でお祝辞を頂戴するという有難いことがありました。

その後私たちが計画し努力してきたのは、東アジア各国に政府とつながりを持つキーパーソンを見つけ出し、その方を通じて各国政府の賛同を得ようという方法でした。私たちの企画が時代の要請に合っていたからかもしれませんが、いろいろな幸運も働き、この計画はかなり進みました。韓国についても、以前から岡本社長と親交のある方が駐日大使に赴任されるなどのことがあり、私共「機構」の幹部が姜昌一大使から二度も大使館に招待されるという光栄に浴することができました。

しかし新型コロナのパンデミックのため海外出張ができなくなり、その他の国についてキーパーソンと直接お会いし、心を傾けてお話しをする機会が失われてしまいました。その結果として、今年の2月22日に当初の目的を達することは残念ながら不可能になったという次第です。

ただ私たちの願望はこれで断たれたわけではなく、むしろその後の世界情勢は私たちの課題をさらに深いものにするよう要請していると思わざるを得ないようになりました。そこで、機構幹部と図ってこの企画は将来も継続することとし、その意思と決意を改めて世に明らかにするため、二度目の記者会見を開こうという事になったわけです。

皆様が祝辞をお寄せ下さった意義は絶大なものでした。第一に、私共の企画が単に日本人だけの独りよがりではなく、賛同して下さっている国もあるのだということを世界に知らせた点です。たった一つとはいえ、一か零では大変な違いがあります。

第二に、国際社会から見ると、日韓関係はまさに戦後最悪です。それなのにこのような祝電が寄せられるという事は、国と国とが対立していても、民間人の間には完全な友好が成り立っている部分もあるという事を証明した点です。これは外国人ばかりでなく、日本人にとっても感銘深いことだったと思われまます。

第三に、これは私個人の見方になるのかもしれませんが、以前ご説明したように、私共の企画は、対立は「解決」が難しくとも、対立物を統合する共通利益を作り出すことによって「超克」することは出来るという、「超克の理論」の実践として考え出したものでした。「韓国語にも『超克』に当たる言葉はあるのか」という問いに対して「ある」と答えてそれを名刺に書いて下さった李洪九元国務総理の名刺を私は大切に持っています。慰安婦や徴用工や最近の世界遺産の問題など、すぐに解決することの困難な問題は一応脇にどけて、「不戦」という共通利益のもとに手を握ろうというのが超克の理論でした。このたびの皆様のお祝辞は、まさにその実践でした。私はその意義を日本人にも説いていこうと考えています。

「脇にどける」という言葉は誤解を招きそうですが、決して「軽視する」という意味ではなく、超克の理論に立たないと対立はいつまでも続くが、その理論に立てば両者に「友好」「共同」「協力」の感情が生まれるから、対立の解決も必ず容易になる、という考えを持っています。

皆様のお祝辞は、ひょっとすると私共日韓の長老が、一つの独特な思想をもって親密な日韓関係を築いていくきっかけになったのではないかという深い感慨を抱かせました。私はあと20日で94歳になりますが、まだ死ねないなという思いを深くしております。

皆様にもくれぐれもよろしくお伝えください。とりあえず御礼まで。

敬具

祝賀電文 西原春夫 東アジア不戦推進機構代表貴下 太平洋戦争を生身で経験した最後の世代である西原春夫代表をはじめとする18名の日本の元老の方たちが「再び東アジア地域で戦争を起こしてはならない」という不戦宣言を2022年2月22日22時22分に東アジア諸国の指導者たちに提案されたことを、尊敬をもって心からお祝い申し上げます。韓国の東アジア平和会議は、西原春夫代表と岡本厚前岩波書店社長をお迎えし、2018年ソウルで東アジア平和（不戦）問題を真剣に議論し、2019年には福田康夫元日本内閣総理と西原代表を日本の多くの知識人と一緒にビデオ会議を通じて同じテーマを議論したことがあります。世界的に強大国の覇権競争が激しくなる中で提起される西原代表の東アジア不戦推進機構の提案が、東アジアと世界中で広く呼応を得ることを心から祈ります。2022年2月22日 東アジア平和会の座長 李洪九・大韓民国元国務総理 崔相龍・元駐日本国大使 李三悦・対話文化アカデミー理事長 李富榮・自由言論実践財團理事長